

特定非営利活動法人 シンビオ社会研究会

平成 20 年度通常総会及び

大連フォーラム 2008 事前説明会

日 時：平成 20 年 5 月 9 日（金） 12 時 30 分～17 時

場 所：京大会館 102 号室

〒606-6305 京都市左京区吉田河原町 15-9

電話 075-751-8311

次 第：

12:30～14:00 通常総会

1. 開会の辞
2. 議長の選任
3. 議事録署名人（2 名）の選任
4. 平成 19 年度事業及び会務報告
5. 平成 19 年度収支決算報告
6. 平成 20-21 年度役員の選任について
7. 平成 20 年度事業計画の提案と審議
8. 平成 20 年度収支予算の提案と審議
9. 全体質疑
10. 閉会の辞

15:00～17:00 大連フォーラム2008事前説明会

1. 講演「オフィスの知的生産性向上と省エネを両立させる照明制御技術」  
下田 宏 准教授（京都大学）
2. 省エネ・環境事業への中国の国策的支援について  
李 徳衡 氏（孚源投資顧問有限公司）
3. 訪中ミッション計画の概要  
中村 洋之 氏（シンビオ社会研究会・会員）

平成 19 年度事業及び会務報告  
(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

平成 10 年設立の任意団体シンビオ社会研究会は、平成 18 年 7 月 15 日に特定非営利活動法人に移行する設立発起人総会を行い、同年 9 月 12 日に京都府庁に申請、同年 12 月 12 日に司法登記した。特定非営利活動法人として第 1 期の平成 18 年度は、平成 18 年 12 月 12 日から平成 19 年 3 月 31 日と短期であったが、第 2 期の平成 19 年度は初めての 1 年間の事業を行ったことになる。第 2 期の事業報告および収支決算報告に関わる資料は、法に定める形式により別途掲載する。

以下、平成 19 年度の行事及び会務に関わる事項に分けて報告する。

1. 事業に関わる事項

1-1. 平成 19 年度シンビオ社会研究会の主な行事記録

年月日	項目	場所	備考
平成 19 年 4 月	ニュースレターNo.3 配布及び前 年度決算・総会準備		
平成 19 年 5 月 9 日	第 1 回理事会	京大会館 102 号室	
	通常総会	〃	
	シンビオ講演会「共生社会とマ ーケティング・アプローチ」	〃	
平成 19 年 6 月 23 日	第 1 回研究談話会	神戸大学百年記念館 会議室 B	ヒューマンインタフ ェース学会共生シス テム専門研究会との 共催
平成 19 年 7 月 9-11 日	21 世紀の共生型原子力システム に関する国際会議 (ISSNP)	福井県敦賀市 若狭 湾エネルギー研究セ ンター	日本原子力学会ヒュ ーマンマシンシステ ム研究部会、JSPS 日韓拠点大学事業 「エネルギー理工 学」サブタスクグル ープ「原子力発電の 運転保守技術高度 化」との共催

平成 19 年 7 月 13-14 日	ヒューマンエラー対策に関する 日韓情報交換会	原子力安全システム 研究所 会議室 (7/13) 京大会館 104 号室 (7/14)	韓国 KINS、関電・ INSS 及び東電の協 力
平成 19 年 9 月 8 日	第 2 回研究談話会 インタラクティブワークショッ プ「明日の人・環境・社会のため の共生インタフェース」	京都大学吉田キャ ンパス 工学部総 合校舎 3 階 3 0 2 号室	ヒューマンインタフ ェース学会共生シス テム専門研究会との 共催
平成 19 年 11 月 2 日	第 2 回理事会	芝蘭会館 第 2 研修 室	
	シンビオ講演会 カフェサロン「国際文化比較論 ー文化・科学・技術と教育の関 わり」	〃	
平成 19 年 12 月 6 日	公開ワークショップ「学習する 組織による原子力組織の安全文 化醸成」	キャンパスプラザ京 都	平成 1 9 年度原子力 安全基盤調査研究 「学習する組織」に よる安全文化醸成に 関する研究プロジェ クトとの共催
平成 20 年 1 月 25 日	第 3 回理事会	京大会館 1 0 2 号室	
	シンビオ技術交流会	〃	
平成 20 年 3 月 7 日	第 4 回理事会	大阪科学技術センタ ー 602 会議室	
	シンビオ講演会「エネルギー・環 境問題の国際動向」	〃 401 会議室	関西原子力懇談会、 原子力学会関西支部 と共催
平成 20 年 1-3 月	次年度活動計画の検討 (ISSNP2008,環境・省エネ日中 共同フォーラム等)		

## 1-2. 研究会の開催について

原子力発電の運転管理技術の内外動向に関わる恒例のシンビオ技術交流会を 1 回開催した他に、本年度新たにヒューマンインタフェース学会共生システム専門研究会との共催で研究談話会を 2 回開催した。さらに 2 1 世紀の共生型原子力システムに関する国際会議

(ISSNP) 開催後に、ヒューマンエラー対策に関する日韓情報交換会を開催した。以下にその開催順に概要を記す。

#### (1) 第1回研究談話会

ヒューマンインタフェース学会共生システム専門研究会との共催で、3つのコミュニケーションインタフェースの新たな取り組みを紹介する研究会を行った。

日 時：平成19年6月23日（土）午後1時—午後4時40分

場 所：神戸大学百年記念館会議室 B

参加者： 約 20 名

プログラム：

講演1. 共有仮想空間でのコミュニケーション支援

講師：藤田 欣也 氏（東京農工大学大学院 共生科学技術研究院 システム情報科学部門）

講演2. 視線計測とインタラクション・コミュニケーション

講師：大野 健彦 氏（NTT 第二部門 ICTリレーション推進室）

講演3. 人と人のあいだ—身体はどこにあるか

講師：阪田 真己子 氏（同志社大学 文化情報学部）

#### (2) ヒューマンエラー対策に関する日韓情報交換会

ISSNP 直後に同会議参加の韓国 KINS 調査団 5名と、原子力発電におけるヒューマンエラー対策の情報交換会を行った。KINS 調査団は日本の電力会社のヒューマンエラー対策の実情を知りたいとのことで、2007年7月12日 美浜 INSS において関電・INSS、7月13日京大会館において東京電力を招いて日韓情報交換を行った。

①日 時： 平成19年7月13日 午前10時～午後4時

場 所： 福井県美浜町 原子力安全システム研究所 会議室

参加者：約20名

②日 時： 平成19年7月14日 午前9時～12時

場 所： 京大会館104号室

参加者：約10名

#### (3) 第2回研究談話会

(インタラクティブワークショップ「明日の人・環境・社会のための共生インタフェース」)  
ヒューマンインタフェース学会共生システム専門研究会との共催で、ヒューマンインタフェース学会 共生システム専門研究会の若い先生方やベンチャー企業の方の協力を得て、「明日の人・環境・社会のため共生インタフェース」の幾つかを、ビデオやデモを交えて参加者にインタラクティブで紹介するワークショップを実施した。

日時：平成19年9月8日（土曜日）午後1時～4時

場所： 京都大学大学院エネルギー科学研究科・先端エネルギー科学研究教育センター  
京都大学吉田キャンパス 工学部総合校舎 3階 302号室

参加者：約 50 名

#### (4)シンビオ技術交流会

原子力発電事業の内外動向として軽水炉新設計画、高経年化対策、デジタル型制御室の運転員の教育訓練について、3件の講演を中心に意見交換を行った。

日時：平成 20 年 1 月 25 日（金） 13：30－17：30

場所：京大会館 102号室

参加者数： 25 名

プログラム：

講演 1： 内外の新規軽水炉建設計画の動向

講師：日本原電・常務取締役 新田 隆司 氏

講演 2： 軽水炉の高経年化対策ロードマップについて

講師：東芝電力システム・執行役員 宮野 廣 氏

講演 3： デジタル型中央制御室と運転員教育訓練

講師：原子力発電訓練センター・常務取締役 大須賀 安彦 氏

#### 1-3. セミナーの開催について

当初、計算機によるダイアログ、ブレインストーミング普及を趣旨にシンビオセミナーを計画したが、京大の膳所高校との高大連携講座の一環として担当者が受講生諸君に 2 回実施したためシンビオセミナー実施は取りやめた。

#### 1-4. 見学会の開催について

当初計画なし。

#### 1-5. シンポジウムの開催について

例年 3 月上旬に関西原子力懇談会、原子力学会関西支部との共催で行う恒例の「エネルギー環境問題の国際動向」講演会を含め、シンビオ講演会を 3 回開催した。とくに第 2 回目では、異文化コミュニケーションから国際文化比較を趣旨に、滞日中の欧米知識人を招待し、マルチリンガル・シンポジウムを初めて実施した。以下にその開催順に概要を記す。

#### (1) シンビオ講演会

日時： 平成 19 年 5 月 9 日（金） 午後 14 時－15 時

場所： 京大会館 102号室

講演題目： 「共生社会とマーケティング・アプローチ」

講師：京都大学経営管理大学院 教授 若林 靖永 氏

参加者数： 20 名

## (2) シンビオ講演会

(カフェサロン「国際文化比較論—文化・科学・技術と教育の関わり」)

日時： 平成 19 年 11 月 2 日 (金) 14:00-17:00

場所： 芝蘭会館 2階 第2研修室

参加者数： 50 名

プログラム：

### 1. 基調講演

「横断文化社会心理学の現在の研究：日本と米国の個性とコミュニケーション」

講師 Dr. David Dalsky (京都大学 客員講師)

2. パネルディスカッション「異文化コミュニケーション：日本の外国人、外国の日本人—私の体験から相互啓発の道を提案する—」

パネリスト：

Dr. David Dalsky (京都大学大学院人間・環境学研究科 客員講師)

Dr. Per Christer LUND (ノルウェー大使館科学技術参事官)

Ms. Claire Czerny (フランス電力会社日本駐在所代表夫人)

川本 義海 先生 (福井大学准教授)

コーディネータ：

竹内 みちる (京大・人間・環境学研究科博士課程1年)

杉万 俊夫 京都大学教授

## (2) 講演会【エネルギー環境問題の国際動向】

日時：平成 20 年 3 月 7 日 午後 2 時～6 時

場所：大阪科学技術センター 4階 401 会議室

参加者数：100 名

プログラム：

講演 1：地球温暖化を巡る国際的な検討の論点と今後の動向

講師：(財)日本エネルギー経済研究所 地球環境総括ユニット総括 工藤 拓毅 氏

コメンテータ：中央環境審議会委員 永里 善彦 氏

講演 2：原子力をめぐる海外事情

講師：京大名誉教授 神田 啓治 氏

講演 3：巨大地震と原子力発電所

講師：京大原子炉実験所 教授 釜江 克宏 氏

#### 1-6. 研究調査について

平成19年度原子力安全基盤調査研究「学習する組織」による安全文化醸成に関する研究プロジェクト（研究代表者 杉万俊夫氏、以下杉万プロジェクト）に協力し、その公開ワークショップの実施企画や杉万プロジェクトの報告書作成印刷配布の支援と、現場との相互交流のための教材作成を担当した。杉万プロジェクトとの共催による公開ワークショップは、平成19年12月6日（木）、キャンパスプラザ京都で実施し、参加者は30名であった。現場との相互交流のための教材作成については学会等の開催する講演会、セミナーに参加し、資料収集や各種資料等の収集を行なった。

その他、電気学会誌の特集号研究論文の企画編集発行に本会メンバーが協力した。

#### 1-7. 国際会議の開催について

日本原子力学会ヒューマンマシシステム研究部会およびJSPS日韓拠点大学事業「エネルギー理工学」サブタスクグループ「原子力発電の運転保守技術高度化」との共催による「21世紀の共生型原子力システムに関する国際会議」（ISSNP）は、平成19年7月9-11日の間に福井県敦賀市 若狭湾エネルギー研究センターにおいて成功裏に終了した。なお、ISSNPに並行して日韓学生サマースクールを実施した。その他平成19年7月22-27日中国北京で開催のHCII-2007で本会メンバーにより企画セッションを行った。

以下シンビオ社会研究会のNP0化に際し、主要企画に挙げたISSNPの実施結果を報告する。

ISSNPは次の3つを目的として今回初めて開催された。

a. 21世紀の共生型原子力システムについてとくに次の3つの分野の新たなアイデアの提起と研究情報の交換を行う。

- (1) 制御とコミュニケーションのための計測、監視、処理方法に関する技術
- (2) システムシミュレーション技術
- (3) ヒューマンインタフェース技術
- (4) 技術の社会、環境との共生のありかた

b. 東アジアの原子力開発国の若手研究者の人的ネットワークの構築に資する

c. 若狭湾地域の原子力関連施設や人的資源を活用するエネルギー研究教育の拠点形成に資する

ISSNPでは、上記のaについて、4つの分野の研究論文の応募を行い、採択された論文52件の講演、内外の著名講師による6件の招待講演（プレナリ講演3件およびキーノート講演3件）で、プレナリセッションおよびテクニカルセッションのプログラムを構成した。また、bについて、日韓原子力学会による学生・若手研究者のサマースクールの同時開催を行った。そしてcについて、初日のプレナリセッションを、地域の一般市民に公開して広く参加を求め、同地域でのエネルギー研究教育拠点形成計画への理解と共生型原子力システムへの知識啓発に貢献致した。

ISSNP会議への参加者は、合計117名で、国外からの参加者は合計43名（韓国20名、中国15

名、台湾2名、米国2名、スウェーデン2名、デンマーク1名、ノルウェイ1名)、国内参加者は74名(ノルウェイ大使館員1名、中国人留学生3名を含む)だった。初日のプレナリセッションには、ISSNP会議参加者117名に、地域の企業、大学、一般市民の参加者約90名を加えて、約200名の参加者があった。

テクニカルセッションでは、3つのキーノート講演と、3つのパラレルセッションで応募論文の発表があった。発表された全応募論文数は52件(内訳:日本27,中国11,韓国7,台湾3,ノルウェイ1,米国1,スウェーデン1,デンマーク1)。

ISSNPに並行して開催の日韓学生サマースクールは、日韓学生・若手研究者だけでなく、中国からの参加者も含めて日韓中3カ国の学生・若手研究者によるサマースクールとなった。参加学生・若手研究者数は21名で、その内訳は、中国7名(ハルビン工程大学7名、清華大学2名)、韓国8名(KAIST7名、KAERI1名)、日本6名(京大5名、岡山大1名)。ISSNPおよび日韓学生サマースクールは、共催団体で構成した「ISSNP組織委員会」で運営し本研究会とは独立会計だったが、本会は会議ウェブ開発・運営に要する費用、招聘外国人参加者の送迎等に要する出費を負担した。なおISSNP終了後の「ISSNP組織委員会」による収支決算の結果生じた剰余金は日本原子力学会と本会に均等配分された。

ISSNPはその後中国ハルビン工程大学の申し出により2008年度は同校で開催の運びとなり本会はその実施に協賛団体として協力している。

#### 1-8. 国際協力事業について

次年度の省エネ・環境日中共同フォーラム実施に向けて検討した。

#### 1-9. 広報活動について

機関誌としてのシンビオニューズレターNo.3を印刷し、会員等に配布した。またシンビオホームページにより、本研究会は主催ないし協賛する講演会等の会議案内や、主催した研究会、シンポジウム、国際会議等の結果の広報を継続的に行なった。



## 2. 会務に関わる事項

### 2-1. 会員状況（平成20年3月31日）

正会員	43名
賛助会員	7社(80口)
登録会員	57名

### 2-2. 会議の記録

平成19年度には以下のように通常社員総会を1回、理事会を4回開催した。

#### (1)第1回通常社員総会

日時：平成19年5月9日(水) 14:00-15:30

場所：京大会館 102号室

出席社員：32名

#### (2)平成19年度第1回理事会

日時：平成19年5月9日(水) 12:00-13:30

場所：京大会館 102号室

出席者：理事15名、事務局1名

#### (3)平成19年度第2回理事会

日時：平成19年11月2日(金) 12:00-13:30

場所：芝蘭会館 第2研修室

出席者：理事11名、監事1名、事務局2名

#### (4)平成19年度第3回理事会

日時：平成20年1月25日(金) 12:00-13:30

場所：京大会館 102号室

出席者：理事9名、監事2名、事務局2名

#### (5)平成19年度第4回理事会

日時：平成20年3月7日(金) 12:00-13:30

場所：大阪科学技術センター 602号室

出席者：理事11名、監事1名、事務局1名

### 2-3. 事務局の現状と今後の対応について

事務所管理・契約管理および事務業務の委託について、会長が総務を兼任し担当している。

事業支援・理事および会員連絡・HP更新について平成19年度全体を通じ、藤野 秀則 氏に業務委託を行なった。なお、同氏への平成20年度業務委託については5月末までとした。

総務による経理・会員管理・官公庁対応書類作成補助について平成 19 年度全体を通じ、吉川 万里子 氏に業務委託を行なった。なお、同氏への平成 20 年度業務委託については年間を通じ、経理・会員管理・官公庁対応書類記録保存に加えるに事務所整理も加えた。

藤野 氏への業務委託が終了する平成 20 年 6 月以降の事業支援・理事および会員連絡・HP 更新については、平成 20 年度に新たに実施する日中共同フォーラムの実務補助を含めた事務局体制を 5 月末までに検討する。

#### 2-4. 府庁への事業報告および法人税・源泉徴収税の納入について

平成 19 年 5 月に京都府庁に本会の事業報告書の提出、国税・府税・市税事務所への前年度事業の法人税納入に関する業務、平成 20 年 1 月に平成 19 年 1-12 月の源泉徴収税納入に係る業務を国税事務所等に行なった。

## 2007年度(平成19年度)特定非営利活動 会計収支計算書

2007年4月1日から2008年3月31日まで

特定非営利活動法人 シンビオ社会研究会

科目	金額	非収益	収益
I 収入			
1. 前期繰越金	3,539,477	3,539,477	0
2. 会費・入会金収入			
入会金	0	0	
正会員費	86,000	86,000	
賛助会員費	4,000,000	4,000,000	
小計	4,086,000	4,086,000	0
3. 事業収入(*収益事業)			
国際会議収入*	179,102	0	179,102
研究調査収入*	1,074,000	0	1,074,000
セミナー収入*	0	0	0
シンポジウム収入	44,000	44,000	0
研究会収入	0	0	0
広報活動収入	0	0	0
小計	1,297,102		
4. 利息	3,611	3,611	0
収入合計	8,926,190	7,673,088	1,253,102
II 支出			
1. 事業費(*収益事業)			
国際会議経費*	158,080	0	158,080
研究調査経費*	544,067	0	544,067
セミナー経費*	0	0	0
シンポジウム経費	816,940	816,940	0
研究会経費	542,278	542,278	0
広報活動経費	53,365	53,365	0
小計	2,114,730	1,412,583	702,147
(非収益対収益比)		(0.67)	(0.33)

2. 管理費			
(※非収益対収益比で配分)			
業務協力費*	1,777,000	1,190,590	586,410
通信費*	93,962	62,955	31,007
光熱・水道料	46,946	46,946	0
旅費・交通費	500	500	0
消耗品費	48,036	48,036	0
家賃	986,590	986,590	0
保険代	15,105	15,105	0
支払手数料*	14,175	9,497	4,678
源泉徴収税*	74,916	50,194	24,722
法人税*	72,800	48,776	24,024
小計	3,130,030	2,459,189	670,841
支出合計	5,244,760	3,871,771	1,372,988
差引収支	3,681,430	3,801,317	△119,886

## 平成 20 年度役員改選について

シンビオ社会研究会の第 1 期役員は、その定款の定めるところにより平成 20 年 3 月 31 日で全員任期終了になりました。そのため平成 20 年 3 月 7 日の理事会において予め次期役員全員について審議し、平成 20 年 4 月 1 日から任期 2 年の第 2 期役員候補全員を推薦致しました。

このたび通常総会に第 2 期役員候補全員を諮りますのでよろしく審議のほどをお願いします。

1. 平成 20 年 3 月 31 日までの第 1 期役員は以下の方々でした。

理事(20 名) :

吉川榮和 (会長)、杉万俊夫 (副会長)、小山滋、若林靖永、下田宏、石井裕剛、長松隆、伊藤京子、作田博、丹羽雄二、塩田修治、松本英治、久郷明秀、西川佳秀、五福明夫、大林史明、山本倫也、手塚哲央、藤井有蔵、福井卓雄

監事(2 名) :

永里善彦、新田隆司

2. 第 2 期役員候補は以下の方々です。(任期：平成 22 年 3 月 31 日まで)

理事 (19 名) :

再任(16 名) : 吉川榮和、杉万俊夫、若林靖永、下田宏、石井裕剛、長松隆、伊藤京子、作田博、丹羽雄二、松本英治、久郷明秀、西川佳秀、五福明夫、山本倫也、手塚哲央、福井卓雄

新任 (3 名) : 千種 直樹、吉田 民也、中村 洋之

監事 (2 名) :

再任 (2 名) 永里善彦、新田隆司

## 平成 20 年度事業計画

(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

科学技術の社会との共生、人・社会・環境に調和し、社会の安全と安心に貢献する科学技術の健全な発展と普及に寄与することを目的に、以下のような共生社会のヒューマンインタフェースに関する学術活動、国際連携活動、社会啓蒙活動に関する事業を行う。

①シンポジウム・研究会の開催では、関連学協会等とも協力して講演会、技術交流会、研究談話会を行う。

②機関誌及び図書の刊行では、ホームページの更新および内容の充実に努め、ニュースレターを発行する。また新たにシンビオ社会研究会編集による学術図書出版にも取り組み、それに関連するセミナーを企画する。

③研究及び調査では、適宜ワーキンググループを構成して広範に取り組む<sup>\*1</sup>。また関連学協会等の関連活動に参加する<sup>\*2</sup>。

(<sup>\*1</sup> 関原懇・JNESプロジェクトの研究調査実施、日韓原子力計装系および人的因子情報交換会など)

(<sup>\*2</sup> 原子力学会・電気学会・ヒューマンインタフェース学会・保全学会などの行うシンポジウム、研究会、ワークショップへの協賛や特集論文号の編集など)

④国際協力では、国際シンポジウムISSNP2008の開催とISSNP2009計画の支援、講演会への外国人講師の講演招待、国際情報交換に努め、日本からISSNP2008に参加する学生への補助を行なう。環境・省エネ日中共同フォーラムプロジェクト実施を支援する。また国際会議HCII-2009へのオーガナイズセッション提案、日韓人間工学若手研究者の定期的ワークショップ交流計画を検討する。

平成20年度の主な行事計画を下表に示す。

年月日	項目	場所	備考
平成 20 年 4, 5月	ニュースレターNo. 4編集・印刷		総会後に配布
平成 20 年 5 月 9日	第1回理事会	京大会館	19年度事業報告 20年度事業計画
	通常総会		
	大連フォーラム2008事前説明会		
平成 20 年 6 月 4-5日	日韓原子力計装系および人的因子情報交換会	韓国・大田	JNES-KINS 交流に協力

平成20年6月17-19日	韓国キョンヒ大学ビュン教授 訪問対応（韓国人間工学会— HI学会共生システム研究会と の交流計画検討）	京大訪問、JR西日本 安全研究所見学	
平成20年9月8-10日	ISSNP2008	中国・ハルビン工程 大学	
平成20年9月18-21日	環境・省エネ日中共同フォー ラム	中国・大連理工大学 国際会議中心	
平成20年10月24日（金）	第2回理事会	京都・芝蘭会館（12 時から）	日韓交流、ISSNP2009 計画等
	講演会（インタナショナルカ フェサロン）	〃（2時～）	外国人講師招待・国 際パネル
平成20年11月（土曜日）	研究談話会（インタラクテイ ブセッション）	日時未定、場所とし て京大本部エネ科先 端センター予定	HI学会共生システム 専門研究会と共催 （高校生等一般公開）
平成20年12月上旬	公開ワークショップ「原子力 組織の安全文化醸成」	12月5日（金）予定	JNESプロジェクト関 係者
平成21年1月下旬	第3回理事会	京都、候補日：1月2 3日（金）	次年度計画
	技術交流会 （運転保守技術、安全解析評 価技術、シミュレーション技 術）	〃	
平成21年3月上旬	第4回理事会	大阪、候補日：3月6 日（金）	次年度計画
	「エネルギー・環境問題の国際 動向を考える」講演会	〃	原子力学会関西支部 および関西原子力懇 談会との共催
平成21年1-3月	各種報告書作成 ニュースレターNo.5編集開始		

## 平成 20 年度収支予算

2008(平成 20)年度 特定非営利活動にかかる事業会計収支予算書

2008 年 4 月 1 日から 2009 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 シンビオ社会研究会

科目	金額 (単位: 円)			19 年度実績
I 収入の部				
1.前期繰越金	3,681,430			3,539,477
小計		<u>3,681,430</u>		<u>3,539,477</u>
2.会費・入金収入				
入金収入	0			0
正会員収入	88,000			86,000
賛助会員会費収入	4,000,000			4,000,000
小計		<u>4,088,000</u>		<u>4,086,000</u>
3.寄付金収入	0			
小計		<u>0</u>		<u>0</u>
4.事業収入(*収益事業)				
国際会議収入*	300,000			179,102
研究調査収入*	900,000			1,074,000
セミナー収入*	100,000			0
シンポジウム収入	0			44,000
研究会収入	0			0
広報活動収入	0			0
小計		<u>1,300,000</u>		<u>1,297,102</u>
4.その他				
受取利息		3,000		3,611
小計		<u>3,000</u>		<u>3,611</u>
当期収入合計			<u>9,072,430</u>	<u>8,926,190</u>



Ⅱ 支出の部				
1.事業費(*収益事業)				
国際会議経費*	600,000			158,080
研究調査経費*	600,000			544,067
セミナー経費*	100,000			0
シンポジウム経費	600,000			816,940
研究会経費	600,000			542,278
広報活動経費	100,000			53,365
小計		<u>2,600,000</u>		<u>2,114,730</u>
2.管理費				
業務協力費*	1,500,000			1,777,000
通信費*	100,000			93,962
光熱・水道料	50,000			46,946
旅費・交通費	50,000			500
消耗品費	50,000			48,036
家賃	1,000,000			986,590
保険代	15,000			15,105
支払手数料*	15,000			14,175
源泉徴収税*	75,000			74,916
法人税*	50,000			72,800
小計		<u>3,005,000</u>		3,130,030
当期支出合計			<u>5,505,000</u>	<u>5,244,760</u>
当期収支差額			<u>3,567,430</u>	<u>3,681,430</u>
次期繰越収支差額			3,567,430	3,681,430